
平成31年度（令和元年度） 全国学力・学習状況調査の結果について

令和元年 12月
小松島市教育委員会

1. はじめに

平成31年4月18日に、小学校第6学年及び中学校第3学年を対象に「全国学力・学習状況調査」が実施されました。その結果概要について、小松島の児童・生徒の学力の定着状況、学習状況、生活習慣等の特徴的な傾向と今後の取組について以下の通りまとめました。

なお、「全国学力・学習状況調査」は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる目的で実施されています。

※全国学力・学習状況調査は、特定の教科の学力や教育活動の一側面について測定したものであります。本市では、本調査結果が学力全体を評価したものと捉えられ、学校間の序列化や過度な競争につながる恐れや、個人が特定される可能性があるため、学校ごとの数値結果（正答率や実数）の公表は行っておりません。

2. 調査概要

(1) 実施日 平成31年4月18日（木）

(2) 調査実施人数

小松島市 小学校 第6学年の児童 295人

小松島市 中学校 第3学年の生徒 246人

(3) 実施内容

① 教科に関する調査

小学校：国語 算数

中学校：国語 数学 英語

② 質問紙調査

学習意欲・学習方法・生活習慣・学習環境を問う

3. 調査結果

(1) 教科全般に係わる調査結果について

【小学校】

国 語	<p>全体の正答率は全国の正答率を やや下回っている。</p> <p>学習指導要領の領域等では「書くこと」は上回り、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は下回っている。「話すこと・聞くこと」「読むこと」は同程度である。評価の観点としては「書く能力」はやや上回り、「言語についての知識・理解・技能」が下回っている。「国語への関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「読む能力」は同程度である。問題形式としては、選択肢は同程度、短答式は下回り、記述式はやや下回っている。</p>
算 数	<p>全体の正答率は全国の正答率を 下回っている。</p> <p>学習指導要領の領域等では「図形」は上回り、「数の計算」「量と測定」「数量関係」が下回っている。評価の観点としては「数量や図形についての知識・理解」は同程度で、「数学的な考え方」「数量の図形についての技能」が下回っている。問題形式としては、選択肢は同程度、短答式はやや下回り、記述式は下回っている。</p>

【中学校】

国 語	<p>全体の正答率は全国の正答率を 下回っている。</p> <p>学習指導要領の領域等では「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」全てがやや下回っている。評価の観点としては「国語への関心・意欲・態度」「書く能力」「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」はやや下回り、「話す・聞く能力」「読む能力」が下回っている。問題形式としては、選択肢、短答式、記述式ともやや下回っている。</p>
数 学	<p>全体の正答率は全国の正答率と 同程度である。</p> <p>学習指導要領の領域等では「図形」はやや上回り、「数と式」は同程度「関数」「資料の活用」がやや下回っている。評価の観点としては「数学的な技能」「数量や図形などについての知識・理解」は上回り、「数学的な見方や考え方」は下回っている。問題形式としては選択肢、短答式は上回り、記述式は下回っている。</p>
英 語	<p>全体の正答率は全国の正答率と 同程度である。</p> <p>学習指導要領の領域等では「書くこと」は上回り、「聞くこと」「読むこと」は同程度である。評価の観点としては「外国語表現の能力」「言語や文化についての知識・理解」は上回り、「外国語理解の能力」は同程度である。問題形式としては、選択肢、短答式はやや上回り、記述式はやや下回っている。</p>

(2)各教科の設問毎の特徴と改善策

【小学校】

国 語

図表やグラフなどを用いた目的を捉える設問の正答率が高く、目的に応じて文章の内容を的確におさえ、自分の考えを明確にしながら読むことができている。

しかし、知識として学年別の漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことの正答率が低く、具体的には「対象」「関心」の正答率が低い。授業において、語彙を豊かにする手立てを講じるとともに、既習してきた語句を用いた言語環境の充実を図る必要がある。

算 数

「図形」領域の理解については正答率が高く、図形学習の基礎・基本は定着している。しかし、「数と計算」「数量関係」領域の複合問題の正答率が低く、少数が混じった四則混合計算における計算間違いが多い。また、文章題に埋め込まれた形や、大問の流れから式を見ることにおいて課題が見られる。指導のなかで、問題の中にある数量関係を式以外で表現する「見える化」、データの読み取りや活用ができる力の育成に努める。

【中学校】

国 語

「話すこと・聞くこと」においては、相手にわかりやすく伝える表現方法や、話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつことに課題が見られる。話し合いの記録の取り方や司会の進め方を確認した後に行う話し合い活動の進め方、話し合いの途中でも話の方向を見直していく進め方などの指導を重視する。また、封筒の書き方についての正答率が低い。手紙の基本的な形式や場に応じた文字の大きさなどを指導する。

数 学

「数の集合と四則計算の可能性についての理解」の正答率が高い。証明の根拠として用いられる三角形の合同条件も理解できている。しかし、「資料の傾向を的確に捉え説明する」正答率が低い。目的に応じてデータを収集し、ヒストグラムなどに整理してデータの分布の傾向を読み取る力、読み取ったことに基づいて判断し、問題解決する活動を充実させて統計的に問題を解決する力を身につけさせる必要がある。

英 語

日常の話題について情報を正確に聞き取ることができ、文中の接続詞を適切に用いることができている。しかし、日常的な話題について簡単な語句や文を正確に聞き取ることにはできていない。聞く目的や場面、状況設定を明確にした聞き取りや、ある程度まとまりのある英語を、年間を通じて継続的に聞かせるなどの取り組みが必要である。

(3)生徒質問紙設問毎の特徴

生活習慣や学習環境等に関する調査結果(一部抜粋)

※数値は「どちらかといえば」「時々」を含む割合を%で示したものである。

番号	質問事項	小学校		中学校	
		本市	全国	本市	全国
1	自分には、よいところがあると思いますか	82.7	81.2	76.8	74.1
2	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	89.9	86.1	80.5	81.5
3	将来の夢や目標を持っていますか	82.4	83.8	70.9	70.5
4	学校に行くのは楽しいですか	89.1	85.8	80.9	81.9
5	学校のきまりを守っていますか	93.5	92.3	96.0	96.2
6	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	98.0	97.1	96.8	95.1
7	普段(月曜日から金曜日)1日1時間以上勉強をしますか (学習塾、家庭教師も含む)	54.5	66.1	68.3	69.8
8	普段(月曜日から金曜日)1日30分以上読書をしますか	32.2	39.8	18.7	27.0
9	読書は好きですか	70.2	75.0	53.3	68.0
10	今住んでいる地域の行事に参加していますか	60.6	68.0	30.5	50.6
11	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	45.5	54.5	34.9	39.4
12	昨年度までに受けた授業で、コンピュータなどのICTを1週間に一度以上は使用した。	27.1	30.6	18.3	30.6
13	授業でもっとコンピュータなどのICTを活用したいと思いますか	79.7	86.5	72.0	78.3
14	総合的な学習の時間、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	59.3	65.7	46.3	61.5
15	学級で学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	66.1	74.0	54.1	71.6

(4)考 察

基本的な生活習慣、規範意識等(質問番号1～6)

「1. 自分にはよいところがある」「2. 先生は、あなたのよいところを認めてくれている」の割合が高く、全国平均と同等か上回っている。学校全体での自尊感情や自己肯定感を高める継続的な取組により、上記の成果が表れている。そのことが「4. 学校に行くのは楽しいですか」の評価に繋がっていると考えられる。

規範意識等(質問番号5, 6)

「5. 学校のきまりを守っていますか」の評価が高く規範意識が高いことが分かる。また、「6. いじめはどんな理由があってもいけないこと」も全国平均よりも高い。今後も各学校の教育活動全体を通して、人権教育を核とした取組を継続していきたい。

学習習慣等(質問番号7～9)

学校での授業時間以外の学習時間を1日あたり1時間以上できている割合は、全国平均よりも大きく低く、家庭での学習が、30分以内や全くできていない児童・生徒もいる。

読書については、家庭で30分以上本を読んでいる児童・生徒数の割合を見た場合、家庭学習と同様に全国よりも大きく低い。今後、家庭学習、家庭読書の定着化を図るような具体的な取組が必要である。

地域や社会と関わる活動等(質問番号10.11)

居住している地域行事に参加している割合が全国平均と比べて低い。また、地域をよくするためには何をすべきかを考えている割合が全国平均よりも低い。例年、この項目については全国平均よりも低い状況が続いている。各学校での地域行事の把握と授業への導入の方策や、地域連携や社会教育活動との連携など大きな枠組みの中での改善が必要である。

授業へのICT活用について(質問番号12.13)

過年度のICTの活用授業の割合を一週間に一度程度以上として割合を見た場合、全国平均よりも低い。とくに中学校においては、その割合が低い。中学校へのタブレット端末の整備をさらに進めるとともに、小中学校のICT環境の整備に努めたい。

話し合い活動について(質問番号14.15)

総合的な学習の時間の情報収集、発表活動などを取り入れた授業があまりできていない。また、学級活動での話し合いや解決方法の模索などの場面も少ない。各学校で、授業の中での対話的な学習を重視した学習形態や学習指導法を意識的に取り入れていく必要がある。

4. 今後の小松島市の取り組み

- 各学校毎に調査結果を分析を行い、改善策の検討をし、授業改善に取り組む。
- 市主催で学力向上推進担当者研修会を開催し、市全体で学力向上に取り組む。
- 個人面談や各種便り等を通して家庭との連携を深め、基本的な生活習慣や家庭学習の充実に取り組む。
- 学校において言語活動の充実を図る中で、読書習慣の定着を図る。
- 地域と連携し、教育活動に必要な人的、物的資源の効果的活用を努める。
- 学校評議員会や学校評価から、各校の行事や教育課程の見直しと改善を図る。
- ICTを活用した授業研究を進めるとともに、ICT環境の充実を図る。
- 話し合いや発表活動を意識的に取り入れた授業改善に取り組む。